

アメリカ女子サッカーの発展にノースカロライナ大学が与えた影響に関する研究

トップスポーツマネジメントコース

5017A305-1 上野 直彦

研究指導教員 平田 竹男 教授

1. 研究の背景

アメリカは女子サッカーの強豪国として知られている。現在はプロリーグも存在し、その選手がアメリカ代表に選出されているが、2015年女子ワールドカップ(以下、W杯)では登録23名全員が大学サッカー出身者であった。また、自国開催の1996年アトランタ五輪と1999年女子W杯とともに優勝を果たしたが、代表選手の多くは大学スポーツ出身だった。しかしながら1970年代初頭、NCAA(全米大学体育協会)における女子サッカー選手が大学スポーツの競技者数に占める割合は約2%に過ぎなかった。石山(2008)によると「TitleIX」が制定されてから、アメリカの多くの大学が女子サッカーチームを創設し、プレー環境は世界的にみて充実しており、大学サッカーがアメリカ代表選手への供給元になったと述べている。また同論文での羽石架苗氏(マウント・ホーリーヨーク大学女子サッカー部監督)へのヒアリング調査によると、女子サッカーはアメリカの中流階級以上の特に白人社会の少女たちに人気があり、女子サッカー選手は少女たちの憧れだった。少女たちの競技選択において、バスケットボール以外では女子種目があまりなく、多くの場合サッカーが選ばれるという現状もあったと述べている。

そんななか1982年に第一回NCAA女子サッカーのチャンピオンシップ(全米選手権)が開催され、ノースカロライナ大が優勝、その後21回の優勝という快挙を果たし、多くのアメリカ代表選手を育成している。同大学の活動を調査することがアメリカ女子サッカー全体の発展や大学スポーツが与えた影響を分析することになると考えられる。特にNCAA女子サッカーの競技力アップ、またチャンピオンシップの運営にどのような影響を与えたかを調査する。

2. 研究の目的

本研究は、アメリカの女子サッカーの発展にノースカロライナ大が与えた影響要因を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

本研究では、インタビュー調査と公開情報をもとに文献調査を行った。

1) インタビュー調査

- ・ノースカロライナ大においてアンソン＝ドーランズ監督はじめコーチ陣、選手、スタッフにインタビュー調査する。

- ・NCAA ディビジョン I の女子サッカー部で活躍している日本人コーチや選手にインタビュー調査する。

2) 公開情報による文献調査

- ・ドーランズ監督に関する書籍、インターネットにおける公開情報、ノースカロライナ大学の資料で調査する。

- ・アメリカの中学・高校生年代における女子サッカーの変遷や競技者人口の推移を調査する。

- ・NCAAの主に女子サッカー競技についての歴史的経緯や取り組みなどを調査する。

4. 研究結果

1) インタビュー調査

- ・1979年、ドーランズ監督によって創部された女子サッカー部は1981年にWomen for Intercollegiate Athletics for Women(AIAW)で優勝した。しかし当時、NCAAは女子サッカーを正式競技と認めておらず、ドーランズ監督が交渉するも当初NCAAは認めなかった。そこでドーランズ監督は同じ考えを持つコロラド大学のコーチ・クリス＝リドストーン氏とNCAAに対して共同提案を提出、何度かの交渉の末に女子サッカーを正式競技として認めさせた。また、翌1982年にNCAAチャンピオンシップ開催することを決定させた。

- ・1980年代後半、ドーランズ監督は新しい才能の発掘の必要性を感じてリクルーティングを強化した。

ヨーロッパから選手スカウトの観点を学び、当初はアシスタントコーチたちと才能発掘のため全米の高校・大会など現場へ赴きリクルーティングを行った。だが、全米が広範囲のため逆に高校生が同大学

に集まる「リクルーティングキャンプ」のスタイルを確立した。これは女子サッカーだけでなく他の女子競技の先駆けとなった。

・ドーランス氏がアメリカ代表監督に就任(1986年から1994年)、9名のノースカロライナ大の選手を代表選出して臨んだ1991年女子W杯(当時は世界選手権)で初優勝。全米での女子サッカーの認知度が高まった。

・FIFAルールと違うNCAA独自のルールを確立した。選手交代枠が3名→基本的に自由となり、選手は出場機会が増えて育成の機会となった。

・ノースカロライナ大にNCAA所属のコーチが多く訪れて学び、練習法など各大学に伝わり、全米の大学女子サッカーの育成・強化へと繋がった。

2) 公開情報における文献調査

・1982年、NCAA大学の全ディビジョンにおいてチーム数、登録選手数、全大学において女子サッカー部が占める割合等、すべてにおいて増加していた。

表1 NCAA女子サッカーのチーム数の変遷

年	学校	年	学校
1982年	104	1995年	631
1985年	121	2002年	868
1991年	258	2008年	959

・1990年後半に入ると他大学もノースカロライナ大のリクルーティングキャンプを取り入れ、選手を発掘しNCAA女子サッカーの競技力向上に繋がった。

・アメリカの中学・高校生年代における女子サッカーの変遷や競技者人口の推移を調査したところ、1970年代後半から競技者が増えており、少女のスポーツとして定着していたことがわかった。

また、NCAAチャンピオンシップの女子サッカーの出場校枠は、2000年は48校だが2001年64校と一年間で16校増加し、現在に至っている。

5. 考察

・ドーランス監督が1982年にNCAA女子サッカーチャンピオンシップを創設に尽力したことにより普及や競技人口が拡大、大学の女子サッカー部が増加した。また、ノースカロライナ大のリクルーティングや練習法などを他大学に伝えることにより、NCAA女子サッカー全体の強化の仕組みが構築され、多くの新しい選手の発掘がなされ、アメリカ代表の好結果

にも繋がったと考察される。

・ドーランス氏はアメリカ代表監督として1991年の第一回W杯に多くのノースカロライナ大の学生や卒業生を招集し、当時メディアによる北欧や中国有利の評価を覆して初優勝を果たした。全米での競技の認知度は向上し、競技人口が拡大した。1979年から2017年までのNCAA全ディビジョンの登録者数は図1のように推移した。

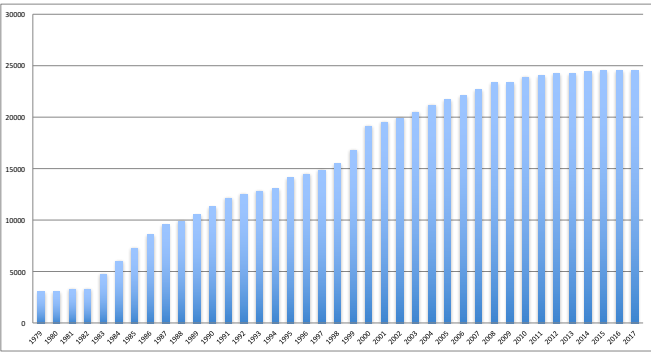


図1 NCAA女子サッカー登録者数の変遷

以上のようにドーランス氏並びにノースカロライナ大の活動が、勝利を生み、競技人口の増加、普及拡大という良い流れに繋がったことが見て取れる。

その後の自国開催となる1996年アトランタ五輪、1999年アメリカW杯での優勝に繋がるアメリカ代表の活躍はこの結果を礎としていると言える。

6. 結論

本研究では、NCAAにおいて女子サッカーを正式種目として採用、その発展にノースカロライナ大学とドーランス氏が貢献し、アメリカの女子サッカー全体へ影響を与えたことが明らかとなった。

新しいリクルーティング法など幾つかの先駆的な取組みからチャンピオンシップ連覇を達成し、勝利がさらなる普及に繋がり新しい才能の発掘へ繋がるという好循環が生まれた。また、同大学出身の選手が五輪やW杯で活躍して勝利し、普及拡大や競技人口の増加に繋がり、アメリカ女子サッカー全体の牽引役になったといえる。